

1 情勢報告

津野山地域営農連絡協議会全体会を開催しました



勢揃いのメンバー。
その数総勢20名！

平成25年1月17日にJA津野山営農センター「輝」で津野山地域営農連絡協議会の全体会を開催しました。

この会は、JA、市町村、農業振興センターで構成し、津野山地域の農業振興を推進するための方策の協議や情報共有を行うものです。

当協議会に設置された4つのプロジェクトチーム（園芸品目の高品質安定生産、販売促進、新品目の導入定着、農家個々の経営安定）から平成24年度の活動実績報告を行うとともに、今年あらためて津野山地域の基幹品目（ミョウガ、ナス類、シシトウ、茶）について品目別の振興方向を策定し、農家・産地への支援を進めていくことを確認しました。

振興センターは、今後とも津野山地域の園芸産地振興、農家の経営安定の推進に取り組んでいきます。

JA土佐くろしお連絡会を開催



くろしお連絡会の様子

1月8日、JA土佐くろしお資材センターにおいて、JA土佐くろしお連絡会を開催しました。

この連絡会は、JA土佐くろしお営農課と振興センターで構成されており、連携し情報を共有することで管内の農業振興を図ることを目的として毎月開催しています。

連絡会ではJAより品目ごとの進捗状況の報告があり、振興センターからはキュウリの出荷状況の分析と、新園芸システムの構築としてオランダ型の栽培方法の試験経過の報告を行いました。

今後とも産地振興が円滑に進むよう積極的に情報共有を行い、両機関が連携して取り組んでいきます。

龍王営農組合の設立（梶原町茶や谷）



集落構成員と関係機関で

1月16日、梶原町茶や谷集会所において22名の生産者が参加し、梶原町で2番目の集落営農組織となる「龍王営農組合」が設立されました。

町産業振興課とともに8月から、集落リーダーを中心に「集落営農勉強会」や「先進地視察」、集落住民への「意向調査」を進め、12月には「集落座談会」で、規約等について具体的な検討を行いました。

当日は、世話役の生産者から設立までの経緯が報告された後、規約や事業計画・出資金額等が承認され、役員も決まりました。

今後とも、農業振興センターでは同組織の運営等について関係機関と連携して支援を行いたいと考えてます。

1 情勢報告

下郷農業生産組合の設立（須崎市下郷地区）



12月25日、須崎市下郷集会所において11名の生産者が集まり、須崎市で2つ目の集落営農組織が設立されました。

同組織には、6月の関係機関との打合せから始まり、意向調査とその報告、専門技術員を招いての勉強会、そして規約（案）の作成等について支援してきました。当日の設立総会では、規約や事業計画、そして機械管理・利用規定が承認され、役員が決まりました。

同組織は、共同利用機械の導入を検討しており、関係機関と連携し県単事業を活用した支援を行っていきます。

大野見産米のブランド化に向けて高知県立大学と連携



全員で、はいポーズ

1月18日、高知県立大学健康栄養学科において大野見産米の試食等を行いました。

今回の試みは、同大学と、中土佐町や大野見産米エコ研究会（以下、エコ研と記載）のメンバーが打合せを行い、実施の運びとなりました。

当日は、大学の休日にもかかわらず学生には、大野見産米やスチームコンプレッサー料理のピラフの試食とアンケートを実施していただき、エコ研からは活動内容を紹介しました。学生は説明を熱心に聞いており、大野見産米と仁井田米の違いなどを質問していました。またエコ研は、生物調査やイベントを計画しており、大学からは協力に前向きな発言が得られました。

振興センターは、関係機関と連携し、関連事業を検討して大野見産米のブランド化に向けて支援していきたいと考えてます。

神母野営農組合の落成式・総会



機械格納庫での神事

集落営農・拠点ビジネス支援事業を活用して、機械格納庫（121m²）を建設した集落営農組織「神母野営農組合」（中土佐町大野見）で、12月23日落成式が行われました。機械格納庫を拠点に作業が安全に、また活動が活発に行われるよう神事と除幕式が盛大に執り行われました。

また、総会では、24年度事業実績、25年度事業計画の協議と合わせ、全員でビジョンの斉唱が行われました。

振興センターでは、今後も組織目標の達成に向け、活動を支援していきます。

1 情勢報告

J A津野山園芸部反省会



成績優秀者の表彰

J A津野山園芸部（ナス部会、ミョウガ部会、シシトウ部会）の反省会が1月17日に行われました。

各部会では、今年の悪天候の中でも、高収量をあげた農家の施肥管理や水管理などのポイントの紹介や、高品質・高収量に向けた試験結果を報告し、技術の普及と共有を図りました。また、GAPのチェックシートによる点検活動を行い、今年の作を振り返りました。

園芸部の全体会では、部会員の目標となる成績優秀者の表彰が行われ、部会員各自が高い目標を掲げ栽培に取り組んでいくことを誓いあいました。振興センターからは産地の維持・活性化のために必要な担い手対策として、農地やハウスの情報提供の協力を呼びかけました。

今後も振興センターは、関係機関と連携して地域の農業振興を支援していきます。